

千歳周辺の自然を守り、伝える

千歳市 しこつ湖自然体験クラブ*トゥレップ

「おっ、ヤマベがいたぞ」、「こっちにはヤゴもいるよ」。千歳市のほぼ中央を流れる千歳川の支流・ママチ川で、夏、子どもたちのはじけるような歓声が響き渡る。つられて大人たちも小魚を追ってタモ網を片手に川中を右へ左へ。

これは同市の自然保護啓発団体「しこつ湖自然体験クラブ*トゥレップ」が、地元の人たちに身近な自然を知ってもらおうと行っている自然体験事業のひとつ。活動は支笏湖及びその周辺をフィールドに、毎春夏秋冬1年を通じて繰り広げられており、自然を体感し、楽しみ、守っていこうという意識を持つ住民の輪が着実に広がっている

■ 自然を知り、守ろうで発足

千歳市は空港や臨空工業団地、自衛隊のまちというイメージが強いが、半面、道央のオアシス・支笏湖を中心に山あり、川あり、湖ありの美しい自然を豊かに残す山紫水明の地。安らぎを求めて年間およそ400万人もの人が訪れることがそれを証明している。



「あっヤマベがいたぞ」。水生昆虫の発見に歓声をあげる子どもたち

ところが、そんなすばらしい自然が身近にあることを知っている住民は以外に少ない。そこで、地元の人たちにそうした貴重な自然を知ってもらい、楽しみながら、守ってゆこうとの意識を持ってもらおうと立ち上がったのが、千歳で自然保護にあたってきた日本、北海道両自然保護協会員で、自然保護観察指導員でもある宮本健市さん、中原直彦さんら7人の有志。自然の中に足を運び、そのすばらしさを体験してもらおう狙いから「しこつ湖自然体験クラブ」と命名、愛称を「トゥレップ」とした。

トゥレップとはアイヌ語で「オオウバユリ」の意味。この植物の特性で、開花期に葉が溶けるので人々が自然に溶け込

む願いと、秋に俵状の実を付け、それがはじけて多くの種を飛ばし繁殖することにちなみ、自然を慈しむ人たちの底辺拡大を願って採用した。平成 15 年（2003 年）9 月のことだった。

■ 活動開始 参加者増加

活動エリアは、支笏湖を中心にそこから流れる千歳川流域、美々川や勇払原野などを含めた周辺一帯と広大。発足当初は設立者 7 人がリーダーとなり、参加者を公募してまずは湖や川、周辺の動、植物観察会から。この参加で、それまであまり知らなかった自然と触れ合うことの楽しさや喜び、湖の生成や特異性、川の流域に息づく貴重な動植物の数々を知った住民は、口コミやホームページでそのすばらしさを家族や知人に伝え、それが契機となって催事への参加者は次第に増加。また、もっと広く、深く味わいたいという面々はクラブの会員に登録していった。

こうして増えたクラブ会員は平成 24 年（2012 年）現在で 108 人にも。中には小学校の教員を勤めるクラブ事務局長・中原さんの教え子で小学生時代から毎回参加してきた男子大学生（20）もいて「オオウバユリの種がこんな形で芽吹いている」と中原さんも感激的。

一方クラブの活動は湖、川、山、湿原…と年々広がり、一般公募の参加者も増加の一途。参加範囲も、スタート時は地

元千歳、恵庭だけだったのが苫小牧、札幌へと広がり、最近では東京から駆けつける親子連れも。男も女も、お年寄りから子供まで入り乱れて大にぎわいだ。



湖、川でカヌーを楽しむ親子連れ

公募は一回最大 40 人が限度だが、カヌーやキャンプ体験、川の水生昆虫観察会などは定員をオーバーして抽選会を開くほど。“親子連れ大歓迎”の姿勢も人気の秘密のよう。参加した人たちに感想を聞くと「すばらしかった」、「こんな身近にこんな美しい自然があったなんて知らなかった」、「この感激を家族や知人に広めたい」、「会員になって、もっともっと楽しみたい」など大感激。水生昆虫観察会でヤゴを捕まえた男の子は「川の中には色んな生き物がいるんだ。来年も是非くるよ」と目をキラ、キラッ。

■ 春夏秋冬 活動休みなく

ちなみに平成 24 年（2012 年）の活動スケジュールを見るとー。

春ーバードウォッチング、サケの放流、台風で傷んだ森への植樹と下草刈り。

夏一川の水生昆虫観察会、湖、川周辺のゴミ拾い、湖・川でのカヌー体験、美笛でのキャンプ、外来害植物の駆除、川流域の鳥・動物観察。

秋一サケの回帰観察、飛来オジロワシ・オオワシ観察、トレッキング登山。

冬一スノーシュー（かんじき）を履いての雪原探索、冬ごもりの木の芽や小動物の足跡・ふん観察…と、一年を通してびっしり。



スノーシューを履いて雪中探索を満喫する参加者たち

さらに観察対象が自然とあって危険との隣り合わせもあり、参加者の安全のために事前の下見調査を行うこともしばしばなので、大半が職を持つスタッフは休む間もない忙しさ。

「我々は自然が好きだからいいんですが、時に、『家庭の方はどうしてくれるんですか』と家族からクレームがつくこともあるんです」と、スタッフの一人、苫小牧・ウトナイ湖野生鳥獣保護センターのボランティアでもある高橋直宏さんは、

中原事務局長ともども苦笑い。

■ スタッフの志高く

こうした活動の運営費は会員の納める年会費千円と、時々発注がある自治体などからの自然調査委託費だけ。観察会参加は原則無料か実費なので、事務局の懐はいつもピーピー。スタッフの報酬はもちろんゼロで、観察現場へ行く際、参加者を分乗させてゆく車のガソリン代が支給される程度。それでもスタッフたちは「多くの方が身近な自然を知り、楽しみ、守りたいという気持ちを持ってくれれば本望です」と屈託がない。

少ない予算の中から、カヌー3隻をはじめ、スノーシュー、テント、ロープなど観察に欠かせない“七つ道具”を、備品として自前で購入しているのもその心意気の現れだ。

そんなクラブの目下の望みは、若いスタッフがもう少し増えてくれることと、参加者全員がまとまって一度に現地まで移動できる公的なバスがあればという思い。

謝礼が伴う自治体や団体からの委託事業ももう少し増えてくれれば財政事情も助かるのですが……と願いはいたってささやか。



「僕らはフクロウだぞ」。木の空洞に納まって自然に溶け込む

会の活動について、現在代表を務める宮本健市さん（65）は「親に手を引かれてきていた子が大人になっても参加してきていて、私たちの、自然を慈しみ、守ってゆきたいという思いがしっかりと伝わっていると思うと本当に嬉しい。自治体や他のまちづくり団体ともうまく協調して活動できており、今後もその方向で歩いていきたい。とにかく多くの人たち、とくに子供や若い人たちに気楽に自然に溶け込んでもらい、貴重な自然が守られてゆけばこんな幸せはありません」と熱い思いを語っている。



■ 連絡先

〒066-0055 千歳市里美 5-12-4

しこつ湖自然体験クラブ*トゥレップ

代表 宮本健市

事務局長 中原直彦

TEL/FAX 0123-29-4233

E-mail : stove-since1988@fork.ocn.ne.jp

URL : <http://www.turep.net/>